

# りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙  
第198号  
19. 6 .24

表紙

・同じ地域に住む生産者と組合員だからできること

P2

・食べるだけでは終わらない私たちの『旬菜セット』

P3

・活動報告 地場野菜取り組み「地域チャレンジ」／竜おうみ米推進月間 おむすびワークショップ／『旬菜セット』の実エンドウ収穫支援  
・職員紹介 ・サークル紹介

P4

・エスコープ大阪第6次中期計画  
・エコロ給付状況報告  
・子育てひろば案内  
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

## 同じ地域に住む生産者と組合員だからできること

エスコープ全地域での地場野菜の取り組みは1978年にスタートし、「生協農園委員会」が結成されました。組合員は「有機質肥料を使い、低農薬で栽培してほしい」と要望するのだから「欲しいときに欲しいだけ」ではなく、「シーズンにどれだけ利用するのか」を生産者と約束し、生産者と毎週、出荷・供給量を計画して、作り続け食べ続けられるシステムをつくってきました。当時の機関紙には、生産者が「組合員が望むものは、土地に合うもので許す限りのものは作っていきたい」「農園にいつでも見学に来ていただき交流を深めていきたい」と語っています。今もお互いがお互いを思う気持ちは変わりません。地場野菜『旬菜セット』の生産者「菜食ファーム」(19名で構成)の今野正章さんに、エスコープ大阪との出会いとこれからについてお話を伺いました。



菜食ファーム 生産者  
(堺市北区長曾根町)

### 今野正章さん

#### 農業に対する意識が 変わった瞬間と出会い

北辻 地場産直を始めたきつかけを教えてください。

今野 農業を始めて間もなく農業散布中に死にかけたことがありました。その時に、「自分はこんなものを売っていいのだろうか」と思いました。また、私は農業をすることにおいて、生産と消費の現場がかけ離れているのが大きな問題だと思っていました。当時、売り先を探す中で、大型スーパーでは金儲け優先、安心・安全を謳う生協でも扱っているのは一般的なスーパーと同じ慣行栽培の野菜ということを経験し、「農業をかけて見た目のきれいなものしか売れないのはどうなのか、これは消費者が生産現場と離れているからだ」と思いました。私は、「目の前にいる(この人に食べてほしい)と思う野菜を作りたい」と強く思うようになりました。

北辻 1980年頃、新金岡の団地での展示即売会で堺市街地地域の組合員と出会ったと聞きました。始めは、堺市街地地域の

組合員との産直取り組みから信頼関係を築かれたそうですね。

今野 自分の住む地域で農地がほとんど宅地化していく状況を目の当たりにし、「なんとか地域の農業を守りたい、そのために自分たちができることは何かないだろうか」と考えている情熱を持った組合員さんと出会いました。当時、私は堺市街地に住む若い生産者と「4Hクラブ」(農業青年クラブ)に所属していました。組合員さんの農業に対する考え方に共感し、一緒に地域産直をしようと思いました。

#### 他ではできない

#### 互いに成長できる場所

北辻 約40年続いてきた地場野菜の取り組みですが、昔に比べて組合員と生産者との距離が少し遠くなっていると感じています。エスコープ大阪の第6次中期計画では、「菜食ファーム」と一緒に『旬菜セット』にない野菜の栽培にチャレンジし、消費や品目提案も経験する「地域チャレンジ」をすすめます。多くの組合員に、地域の生産者と共に活動することで「自分たちの農園」であることの意識や経験を育んでほしいと考えています。

今野 いつでも畑に来てください。そうすれば栽培の状況や野菜本来の姿がわかります。市場

の野菜で、まっすぐ均一だったり、虫もつかないものが不自然だとわかると思います。地場だからこそ誰でも自分の畑のように通うことができますし、そこから地域の姿が見えることもあります。また、生産者は消費者からの励ましが一番うれしいです。皆さんと交流する中でお互いに刺激し合い成長していける部分があると思います。今は全国的に就農者が減少していますが、「菜食ファーム」を脱退した元メンバーも、みな農業は続けています。組合員との交流をしていたことが農業をやめない理由のひとつかも知れません。

#### 地場の野菜を食べる ことでつながる関係

北辻 今野さんは、地域の人々で構成される「金岡まちづくりの会」にも参加されていますが、過去には堺市街地地域委員会も会の活動に参加していたと聞きました。

今野 国や行政、地域住民が協力して取り組みがすすんでいます。畑から見える堺市のゴミ焼却施設では、ゴミの焼却時に出る熱を売電していますが、これからは地元の畑のハウスの冷暖房に使ったり、その畑で収穫体験をし、採れた野菜を使ったレストランもできる予定です。休

耕農地が増えてきていますが、農地を活用しながらまちづくりを進めています。地域の老人会や婦人会、学校なども巻き込んで地域を守っていくと動いています。エスコープ大阪の組合員と取り組んできた経験が、このような動きにつながっていると思います。これからも菜食ファームの畑というフィールドを大いに活用して、楽しいことをたくさん考えて遊んでくださいよ。

北辻 組合員活動が回り回って地域や社会を動かす。菜食ファームの畑を使って何ができるのか、自分たちの思い描く社会を実現するには、まずは地域からですね。いろいろな可能性を秘めた畑の前に、わくわくした気持ちになります。昔に比べると地域コミュニティが希薄になっていると言われますが、地場の野菜を食べることでつながる関係をこれからも続けていきます。そしてエスコープ大阪の食べる力をさらに高めて、この取り組みを広げていきます。





# 食べるだけでは終わらない 私たちの『旬菜セット』

2018年度エスコープ大阪総代会にて第6次中期計画を決定し、あらためて「食」への取り組みをさらに強化する方針を立てました。そのひとつとして国内自給率を高めることや、環境やコミュニティづくりなどの取り組みの実践として、また農地の保全と自分たちでおこなう食料確保の手段として地場野菜の取り組みは今後ますます貴重になってくるものと考えています。おいしい旬の野菜を食べて自分たちの住む地域の農業を守り、発展させることに参加しませんか。

## 生産者と私たちの 取り組み

エスコープ大阪の地場産直野菜は、1973年に堺市東山の生産者と地域組合員との出会いから始まり、「生協農園野菜」(東山農園)と名付けられました。すぐそばにある「自分たちの農園」という意識やこだわりが名前に表われています。「畑でできた野菜を自分たちで分け合って食べる」という考えは、現在の『旬菜セット』につながっています。

『旬菜セット』の生産者グループ「菜食ファーム」19名の圃場は、堺市、河内長野市、和泉市、岸和田市にあります。メンバーが所有する圃場を合計すると16・1町歩(159669・4平方メートル)になります。2015年のデータでは、大阪府の野菜出荷額は約153億円、その内菜食ファームのエスコープ大阪への出荷額は約4千万円です。現在、大阪府の世帯数は約695万軒、エスコープ大阪の共同購入組合員は約1万人です。世帯割合から金額ベースで比べると、エスコープ大阪の組合員は大阪産の地場の野菜を平均

の約2倍食べていることになりました。

## 『旬菜セット』を食べる ことで実現したいこと

現在、日本のカロリーベースでの食料自給率は39%、都道府県別食料自給率(左表)では大阪府は2%で45位です。スーパーで青果の産地表示を見ても大阪産はあまり見かけません。最近では大阪の地域ブランド「大阪もん」などや、特設の地場野菜コーナーなどを見かけたりしますが、全体から見るとまだまだ少数です。

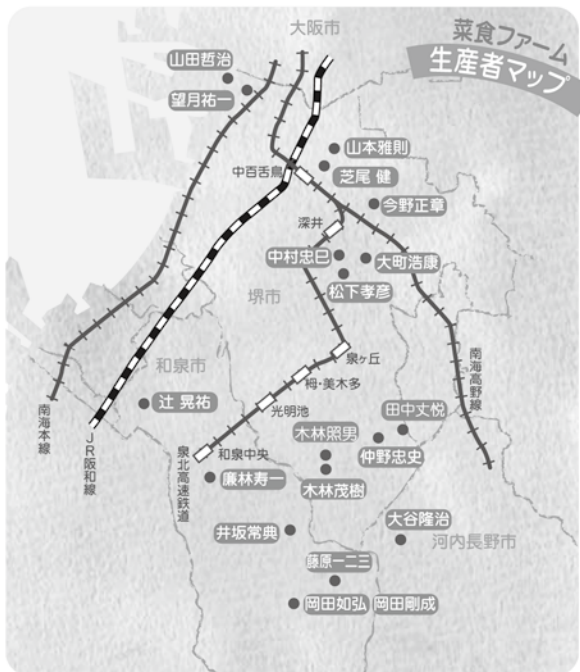
また、国内の農業従事者数は年々減少してきており、年齢構成を見ても70歳以上が47%と半数近くを占め、49歳までの若年層の割合は12%にとどまっています。地場野菜のセット『旬菜セット』を食べる人がおおいいることで、生産者の減少や高齢化の問題の解決にもつながると考えています。

また、都市近郊農地の役割は食料の供給だけにとどまらず、農業の使用を減らす栽培は、化学物質の削減を実現し、地域の環境を守ることにつながります。また、コミュニティづくりや働く

場として、地域の農業・農地の活用を考えていくことができます。そして何より生産者をつながることで、消費者が生産について知ったり関わったりでき、いのちや環境について学べる身近な実験フィールドにもなる貴重な場です。

『旬菜セット』は私たち組合員がより主体的に関わり、生産者と一緒に、作付から規格や価格の設定をしながら、産地が近く、すぐに行ける場所ばかりなので、折々の栽培過程も直接見ることが出来ます。

自分たちの暮らす地域の旬を感じ、おいしくいただきながら、食の問題を解決していくことにつながる『旬菜セット』をみんなで食べすすめていきましょう。



都道府県別食料自給率(2014年農林水産省)

上位		下位	
1位 北海道	207%	43位 京都府	12%
2位 秋田	191%	44位 埼玉県	11%
3位 山形	142%	45位 大阪府	2%
4位 青森	124%	46位 神奈川県	2%
5位 岩手	111%	47位 東京都	1%

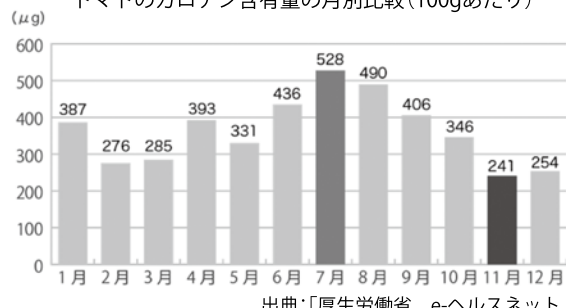
## 旬の野菜を食べよう

ある特定の食材において、他の時期よりも新鮮でおいしく食べられる時期を「旬」といいます。また、旬の物はたくさん市場に出回るため値段も安価になりやすく、消費者にもうれしい時期です。出回り期とも呼びます。

日本は、気候と地域の多様性に恵まれ、旬の食べ物や地域産物を組み合わせて調理し、おいしくバランスのとれた食事を摂ってきました。

### ～春夏の野菜 トマト～

トマトのカロテン含有量の月別比較(100gあたり)



出典:「厚生労働省 e-ヘルスネット」

※東京とその近郊の5店舗で毎月店頭でよく売れている品種、そしてより新鮮なトマトを1年間分析。

※ビタミンの一種であるカロテンは出回り期の7月は528μgと最も多く、11月には241μgと出回り期の半分以下(1年間平均値は364μg)。

7月は  
地場野菜  
推進月間

## 『旬菜ミニセット』お試しキャンペーン

～同時に配布される全体チラシもご覧ください～

地場野菜の取り組みを維持していくために、生産者と協力して週平均2000セットの利用をめざしています。キャンペーンでは通常、定期予約しないと利用できない『旬菜ミニセット』が注文書で申し込みできます。ぜひこの機会にお試ししていただき、都市近郊農家を守り発展させていく活動に参加し旬の野菜のおいしさを味わってください。

注文番号	お届け*	注文方法
2799	28週(7/15～) 29週(7/22～)	26週(7/1～)に提出する27週注文書に4ケタ番号を記入してください
2899	29週(7/22～) 30週(7/29～)	27週(7/8～)に提出する28週注文書に4ケタ番号を記入してください

※受注数によりお届け週がかわります。ご了承ください。

## 旬菜セット

- 栽培基準は、栽培期間中の化学肥料は不使用で、農薬は不使用または大阪府のエコ農産物栽培基準(農薬の使用回数が大阪府内の標準的な使用回数の1/2以下)の1/2以下。
- 『旬菜セット』を利用するには定期予約が必要です。内容はおまかせで旬の野菜をセットで毎週お届けします(ミニセットは隔週予約もできます)。
- 予約は配達担当もしくは直接電話でお申し込みください。申込み・お休みは前週配達時(1週間前)までにご連絡ください。OCR注文書やインターネットでの申し込みはできません。

ミニ  
セット



価格:1,000円前後  
品数:3～6品目  
程度

少量多品種で、少人数のご家庭に、また『旬菜セット』初心者におすすめです。

ファミ  
リ  
セット



価格:1,500円前後  
品数:6～9品目

4～5人家族が1週間食べ切れる量です。また、積極的に野菜を摂りたいと考えている方にもおすすめです。



泉北ニュータウン地域  
**地場野菜取り組み「地域チャレンジ」**  
 4月29日(月)「菜食ファーム」松下さん、大町さんの畑(堺市中区東山)  
 4月30日(火)「菜食ファーム」田中さん(堺市南区畑)、仲野さん(堺市南区鉢ヶ峯寺)の畑

泉北ニュータウン地域理事  
 庄野 明子

2019年度は、地域ごとに地場野菜の生産者と提携し、2020年度以降の『旬菜セット』に組み入れる新たな野菜を栽培する消費材開発プロジェクト「地域チャレンジ」に取り組みます。

「菜食ファーム」は、私たちが暮らす地域のすぐそばで野菜を栽培・供給する都市農家です。都市で農業を続けることは地域の農地を守り、農業などの化学物質を減らした農業を続けることで地域の環境を守るだけでなく、「地産地消」や「地域のコミュニティづくり」にもつながります。地元にある畑で農作業を体験して野菜ができるプロセスに直接関わることで、自分たちがどのようなものを食べているのかを知ることができ、安全で安心して食べられるこの野菜をどうしたら好むかと食べ続けていけるのかについて

**地域チャレンジが始まります！**



が作り続けることができ、関係性をつないでいくことも大切に考えています。

地域チャレンジの取り組みの中で、組合員が気軽に生産者と交流する機会をつくり、顔の見える関係を育んでいきます。泉北ニュータウン地域では、ゴールデンウィークに鉢ヶ峯地区と東山地区の4名の生産者の畑を訪問し、どんな野菜を栽培できるか話し合いを始めています。もつと組合員が生産者とコミュニケーションを取り、気軽に畑(産地)を訪問できるように、月に1回の畑訪問を軸に地域企画を開催したいと考えています。

考えるきっかけになり、食べたい野菜を作ってもらい、「できた分は食べ切る」と約束すること

で、生産者

大阪市南・中河内地域  
**竜おうみ米推進月間 おむすびワークショップ**  
 5月20日(月)  
 住吉区民センター  
 (大阪市住吉区)

大阪市南・中河内地域理事  
 今里 元子

**おむすびワークショップで竜おうみ米を味わう！**



はじめに参加者の家庭でのご飯事情を伺いました。お子さんのためになるべくご飯食にしたいと考えている人、育ち盛りの子どもがいるので毎日たくさんのご飯を炊く人など、普段からお米の消費量が多い家庭がある一方で、3合炊きの炊飯器でも炊飯する機会が少ない家庭もあり、お米離れが進んでいる現状を感じました。忙しくてお米を研いで炊くことが大変だと感じる人も少なくないのかもしれない。

各家庭の事情を聞き、「お米の良さを知ってお米のこれからを一緒に考える時間にしてもらいたい」とそんな思いを込めて、炊きたての白ご飯でおむすび作りがスタートしました。具材はシンプルに梅干しだけ。ぬらした手のひらに塩を取り、ふわりと盛った白飯をのせ外側はしっかりと、内側は米

粒がつぶれないように、いねいにやわらかく結びます。最後に焼きのりを巻いておむすびが完成！ 具だくさんのお味噌汁と一緒に食べました。久しぶりに食べるおむすびをおいしそうに味わう参加者の表情がとても印象的で、「お米の栄養素って炭水化物だけだと思ってましたが、その他の大切な栄養もたくさん摂れるんですね！」とお米の良さに気付いてくれた方もいてうれしくなりました。

最後に、滋賀県竜王町で環境保全に配慮した栽培方法で大切に育てられている「竜おうみ米」のことを話しました。圃場の様子や生産者のこと、そして「竜おうみ米」を主軸とした私たちの食料基地作りのことなどを説明し、「竜おうみ米」を食べ続けていきたいという思いを伝えました。食べることは生きること、お米をこの先もずっと私たちの主食として大切に食べていきたいです。

**辻さん夫妻は力を合わせて農業に取り組む素敵な2人でした**



を理事会で決定しました。河内長野・大阪狭山地域委員会からは4名が2日間、菜食ファームの生産者、辻さん夫妻の畑で収穫を手伝いました。今年の作付面積は昨年の2倍の1反(約1千㎡)で、私たちが訪れた時には、実エンドウが鈴なりになっていました。畑に入る前に、辻さんからA品とB品の見分け方と採り頃のエンドウの見分け方を教えてもらいま

た。露地栽培では、同じ畝(うね)でも南側と北側では実の成熟具合が明らかに違います。最初はどれを採っていいのかわからないながらでしたが、みんなで確認しながら作業を進めていきました。天気も良く、強い日差しの下での作業でしたが、畑の近くの溜め池からの風が心地良く、黙々と収穫しました。

休憩時間には、辻さん夫妻といろんなお話をさせていただきました。おふたりは、「体に良いものを栽培することは、その土地にも良い」と

考え、無農薬・有機質肥料・露地栽培にこだわろうと決めて新規就農し、8年目になるそうです。過去にはせっかくなった豆を取り切れずに畑に残したままになったこともあるそうです。組合員に届いてこそ実エンドウ栽培のゴールと考えていて、できるとかぎり全量の収穫をめざしているそうです。

今回は生産者だけで全量を収穫することが難しく、組合員が援農することになりましたが、生産者や菜食ファームで収穫・出荷まで完結するにはどうすれば良いか生産者と一緒

**皆さんはじめまして!!**

職員さんが自己紹介!!



吉福真之介(24歳)

エスコープ大阪在籍年数1年2ヵ月  
 [共同購入フロア・泉北支所]

入協して一年が経ち、エスコープ大阪に職員として携わったことで、日々いろいろなことを学べる環境にあることをありがたく思っています。そして、2020年で設立50周年という歴史あるエスコープ大阪に入協できたことに感謝し、組合員の皆さんがこれまでエスコープ大阪を持続させてきたことに感激しております。まだまだ

未熟ですが、まずは元気いっぱい仕事に取り組んでいます。昨年12月に第一子が産まれ、今までは自分たちの食べる物に関心を持たずに生活していましたが、「産まれてからどう育てるのか？」を調べたことで、オーガニックや無添加などいろいろなことを知りました。特に赤ちゃんや小さな子どもはとも敏感ということ、エスコープ大阪が「不要なものを使用しない」消費材を供給していることに改めて興味を持つきっかけにもなりました。自分の子どものため、未来の子どものために、消費材をたくさん利用して安心とおいしさをたくさんの人へ伝えていきたいと思っています。

市民活動を応援!  
**サークル紹介**  
**ナチュラルライフ**  
**くらぶサークル**  
 (代表: 辻本 浩子さん)



せっけん利用や暮らしの中の化学物質について考える活動をしてきた「ナチュラルライフくらぶ活動推進委員会」が前身で、当時のメンバーである西浦麻理さんが委員会活動終了後も活動を続けるためにサークルを結成して9年目を迎えます。

は日常生活に取り入れられるものばかりで、化学物質や環境に配慮した生活を自然に取り入れることができ、ひとりりやると重苦しい作業もみんなで行うと楽しくできるそうです。虫除けクリームや小豆のホットパック、ローズオイルの化粧水作り、年に1回の料理企画など活動内容は多岐にわたり、消費材も積極的に取り入れて活動されています。直近ではメンバーからのリクエストで、ハーブを自分たちで育ててハーブティやハーブを使った料理に挑戦する予定です。



エスコープ大阪の加入歴はそれぞれですが、「みんな昔から知っているような感じ」というメンバーの言葉通り、取材当日も玉ねぎをすりおろして涙を流しながらも楽しんで、アットホームな雰囲気ながらも印象的でした。

年間活動





## 第13回 理事会報告 <5月8日>

### 【3月度決算報告】

- 供給高 1億8,718万円(前年同月比102.4%)
- 組合員数 19,426名(前月比-65)
- 一人あたりの出資金 80,250円

### 【4月の放射能検査結果】

4月は連合消費材758検体、エスコープ大阪独自の消費材1検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

### 【決議事項】

- ①第30回生活クラブ連合会・共済連通常総会の代議員選出について
- ②大阪府生協連合会第58回通常総会の代議員選出について
- ③日本生協連第69回通常総会及び日本コープ共済連第11回通常総会の代議員選出について

### 【協議事項】

- ①2019年度エスコープ大阪総代会議案書・巻末資料の最終確認
- ②7月地場野菜推進月間の地域委員会取り組みについて
- ③2019年度まつりの名称とエリア担当地域などの決定
- ④中井製茶との今後の取り組みについて
- ⑤エスコープ大阪 第53回通常総代会の運営について
- ⑥2020年度総代会開催日程と会場について
- ⑦各地域委員会の確認する会報告の共有について
- ⑧「ハウス・エアコンクリーニング」の価格改定について

### 【報告承認事項】

- ①2018年度下期サークル活動報告および2019年度上期サークル活動計画について



### エコロ制度 5月度報告

加入者数 1,293名

給付状況	組合員活動を支えるためのケア	0件
	組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
	加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
	加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
	加入者本人の産前産後のケア	0件
	長期に留守をする時のケア	0件
	リフレッシュのためのケア	0件
	儀式・行事に伴うケア	0件
	高齢の加入者をサポートするケア	5件



### エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
7月17日(水)10～12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
7月16日(火)10～12時	さつき野東集会所(南河内地域)
7月11日(木)10～12時	泉佐野市佐野公民館(泉州地域)
7月23日(火)10～14時	和泉市コミュニティーセンター (泉州地域)

\*開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK  
\*組合員でないお友達との参加もOK \*事前申し込みは不要  
\*お茶代100円(大人のみ)をいただきます

### 編集後記

「食食ファーム」の今野さんの取材に行くにあたり、1994年発行の書籍「百姓新時代」という本を読み直しました。この本では、若かりし頃の今野さんを中心に有機農業や生協との地場野菜の取り組みなどが取り上げられています。直接お話を伺い、農業の危険性や生協との取り組みなどを熱く語る姿は、昔とまったく変わっていませんでした。その変わらぬ姿勢は、たくさんの組合員と関わり、想いや関係をつないでこられたからだだと思います。地場野菜は生産者と消費者が互いに近くで見えて関係を築くことができる、魅力ある取り組みであることを改めて感じました。(K)

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基盤づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は、中期計画の実行方針である「人づくりとつながりをさらにすすめていきます」という方針についてお伝えします。



## エスコープ大阪 第6次中期計画

### おおぜいの組合員の参加をめざして

#### 充実した活動のための 基盤づくり

協同組合の運営は、組合員の主体的な参加が必須条件です。しかしながら最近では社会状況も相まって、地域の活動リーダーとなる地域委員や、生協の事業をすすめる上で不可欠な理事の選出が簡単ではない状況が続いています。

第6次中期計画では、組合員や職員事務局が「地域チャレンジ」(生産と消費の実験を踏まえた地域提携)や消費材開発などに取り組んで経験値を上げることを掲げていますが、その基盤として「研修プログラム」づくりをすすめています。2018年度に調査した他生協の研修内容を参考に、2019年度から4月の研修として、新任(候補)を含めて「地域委員研修」と「理事研修」を実施しました。

#### 4月研修の実施

地域委員研修では、エスコープ大阪の歴史や協同組合についての基本的な学習と、エスコープ大阪が課題としてめざしている取り組みについて、日々の活動とどうつながっているかを、ディスカッション形式で伝えました。



地域委員研修での学習の様子



理事研修でのディスカッションの様子

研修に参加した地域委員からは「責任を感じた」とともに、地域での活動がよりエスコープ大阪や日本(社会)のためにもなるのだと感じ、そういう気持ちで活動していこうと思った」「自己満足に陥っていたので、持っているものをもっともっと発信できるようにしていきたい」と

#### 組合員の多くの参加が 組織的な成長につながる

地域委員や理事は日々の活動を通じて、さまざまな場面での経験、そして感情も含めて充実感を得られるものですが、それが疲弊感として聞こえてくることもあります。それでも私たち組合員は「自ら考え、自ら行動する」「人たちの集まりであり、「やりたいたい」「に耳を傾け、「一緒に活動しよう」と日々声をかけ合い、エスコープ大阪にどう動きをつくり出してきました。この数年、委員や理事の役割を事前に候補者に説明して選出してきたことで、今年の4月研修も実現できたと考えます。今後さらに研修プログラムづくりをすすめる、みんなで力量アップをめざし、組織的な成長をめざしていきます。

思った」「理事に任せている部分があったが、自分でつなげていけたらと思った」など前向きで主体的な感想がありました。理事研修でも、理事候補の前向きな姿勢が見られました。グループディスカッションでは本筋の回答が少なく、研修の進め方の課題として今後改善していきたいと考えています。

## おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

196号2面「これからも食べ続けたい『ウイナークラブ』の豚肉」を読んで

紙面モニター Aさん

おすすめしたい消費材は豚肉です。一頭買いをしてどの部位も余すことなく食べることが安心安全な品種・飼料・飼育方法を守っていることが詳しくわかり、良かったです。このシステムを持続していくためにも利用していきたいと思った。

196号3面「遺伝子組み換え反対運動推進月間・株丸本、米澤製油株、新生酪農株」を読んで

紙面モニター Bさん

自分の地域以外の報告を見ることができて他の生産者がどのような話をされたのか知ることができて良かったです。3つの記事で関連していたのは日本以外の国でのNON-GMOをいかに守っていくかということだと感じました。日本はいろいろなものを輸入に頼っているからこそ海外への働きかけも重要だと感じました。遺伝子組み換えは本当に大きな問題だと思うので、もっとたくさんの人にこの状況を知ってもらいたいと改めて感じました。

## Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き  
198号(2019.6.24)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/